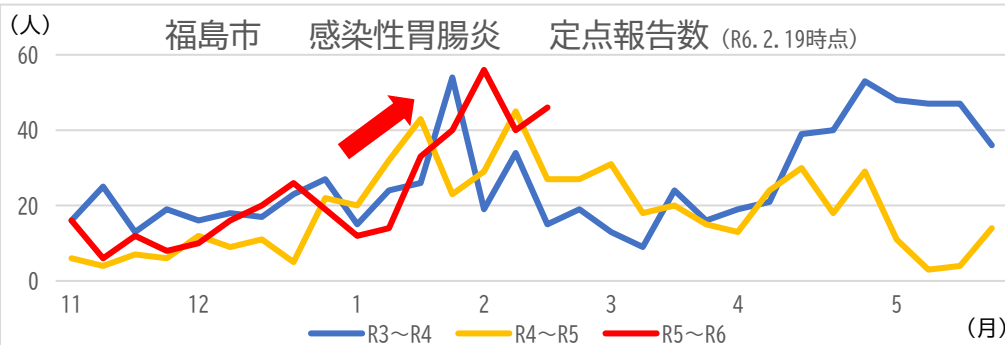


ノロウイルスによる感染性胃腸炎が流行しています



ノロウイルスによる感染性胃腸炎は毎年11月～翌年4月にかけて流行します。福島市では、1月下旬からノロウイルスによる感染性胃腸炎の発生が増加しています。治療は点滴などの対症療法となります。

【症状】 嘔吐・吐き気、腹痛、下痢等

あまり高い熱とならないことが多い

【特徴】 患者の糞便や嘔吐物には大量のウイルスが排出される

感染力は極めて強力で、少量のウイルスで人から人への感染が広がる

アルコール消毒ではウイルスが死滅しない

症状が治っても2週間から1か月程度少量のウイルスを排出することがある

【潜伏期間】 腸内で増殖し、24～48時間程度で発症

【感染経路】 接触感染：感染者の便や嘔吐物に直接接触した手指を介して感染する

飛沫感染：嘔吐物が乾燥するとウイルスが空中に漂い、その飛沫を吸い感染する

経口感染：ノロウイルスに汚染された食品を加熱不十分で食べる

予防

- 正しい手洗い(食品を触る前や食事前、トイレ後、嘔吐物処理後は必ず)
- 調理器具や感染者が触れた物の消毒(次亜塩素酸ナトリウムでの消毒)
- 食品の中心温度85℃～90℃で90秒間以上の加熱



手洗いの手順

手洗い前のチェックポイント

- 爪は短く切っているか
- 時計や指輪を外しているか

汚れが残りやすいところ

- ◎指先や爪の間
- ◎指の間
- ◎親指の周り
- ◎手首
- ◎手のしわ



① 石けんをつけ手のひらをよくこする



② 手の甲をのばすようにこする



③ 指先・爪の間を念入りにこする



④ 指の間を洗う



⑤ 親指と手のひらをねじり洗いする



⑥ 手首を忘れず洗う

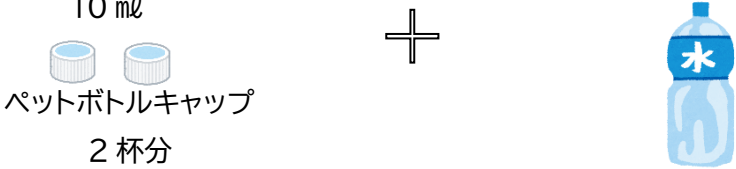
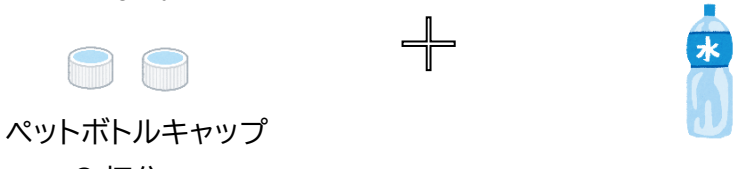
⑦ 十分に水で洗い流し、ペーパータオルや清潔なハンカチ等でよく拭き取って乾かす

※ハンカチやタオルの共有はしない

①～⑦を2回以上繰り返すとより効果的

消毒液の作り方

※次亜塩素酸ナトリウムは手指消毒で使用しないでください
効果が薄れるため作り置きをしないでください

消毒液を使用する場所・もの	作り方(原液濃度5～6%の塩素系漂白剤を使用する場合)
ドアノブ等患者が直接触れる	<p style="text-align: center;">消毒液の濃度:0.02%</p> <p>家庭用塩素系漂白剤 10 ml ペットボトルキャップ 2 杯分</p> <p style="text-align: center;">+</p> <p>水 2ℓ</p> 
嘔吐物等直接付着	<p style="text-align: center;">消毒液の濃度:0.1%</p> <p>家庭用塩素系漂白剤 10 ml ペットボトルキャップ 2 杯分</p> <p style="text-align: center;">+</p> <p>水 0.5ℓ</p> 

嘔吐物等処理のポイント

～素早く処理、乾燥させない、消毒する～



- ・嘔吐物等の処理時や次亜塩素酸ナトリウム使用時は換気をしながら行う
- ・嘔吐物等は、外側から内側にかけて静かに拭き取る(片付けが終わるまで3m以内に近づかない)
- ・ドアノブ等直接接触した場所は0.02%、嘔吐物等直接付着した場所は0.1%の次亜塩素酸ナトリウムで拭き取り消毒(手指消毒は×)を行う
- ・マスクや手袋を外すときは汚染した面に触れないようにする
- ・処理に使用したものはビニール袋に入れ密封して破棄する

準備しておくの良いもの

- ① 処理者が感染しないようにするもの⇒マスク、使い捨て手袋・エプロン
- ② 拭き取り廃棄できるもの⇒新聞紙、古布、ペーパータオル等
- ③ 嘔吐物等を密封できるもの⇒ビニール袋
- ④ 消毒液作成に使用できるもの⇒次亜塩素酸ナトリウム、ペットボトル

これらを1つのバケツ等に入れ、すぐに処理できるように準備!



←福島市ホームページ QR コード

URL : <https://www.city.fukushima.fukushima.jp/hokenyobo-kt/kenko/iryo/kansensho/14.html>

発行日：令和6年2月29日 発行：福島市保健所 保健予防課 感染症対策係

住所：〒960-8002 福島県福島市森合町10-1 電話番号：024-572-3152